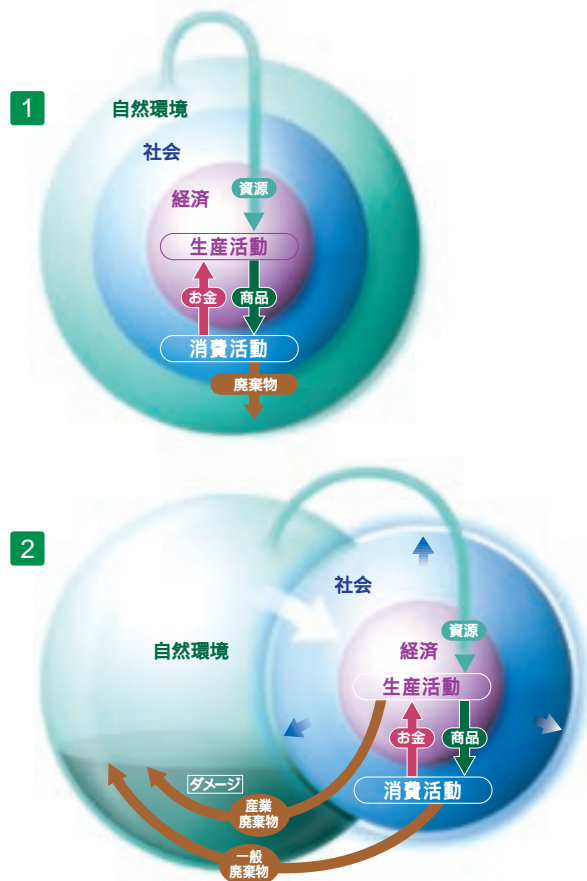


環境保全の必要性(Three P's Balance)

地球規模で環境負荷を削減し、豊かな社会を創造して行くことが、企業に望まれています。

かつて人間の経済活動から排出される環境負荷は、自然の浄化能力の範囲内に納まっていました。しかし、産業革命以降、環境負荷は急激に増え続け、2050年には地球が3つ必要になるとも言われています。よりよい地球環境を取り戻すための重要なキーを握っているのは企業です。企業が、真剣に環境保全に取り組む必要性は、環境、社会、経済活動の3つのP(Planet, People, Profit)が時代と共に、どのように変化してきたかを考えることによって明らかになります。

環境保全の必要性を表す「Three P's Balance™」



1 産業革命以前の環境負荷は小さいものでした。

産業化が始まる以前は、人間社会から発生する環境負荷は、自然の回復力の範囲内に納まっていました。

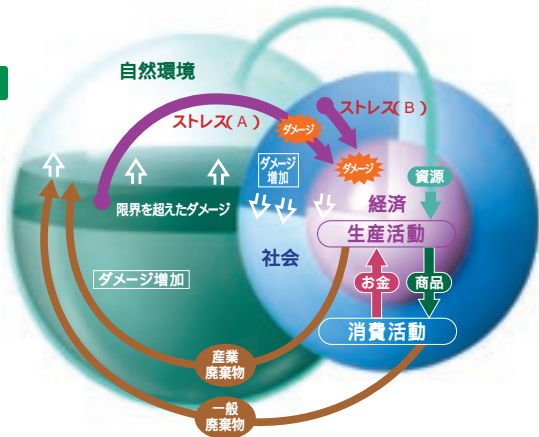
2 産業革命以降、自然へのダメージが急増しました。

イギリスで始まった産業革命は、またたく間に世界に広がり、人間社会が自然に与えるダメージは、一気に増大しました。人間は、図 2 のように、あたかも自然から独立したようにふるまい始めました。自分たちが自然の一部であることを忘れてしまった人間にとって、自然は、どこか遠くにある農場のようなものであり、無限大のごみ捨て場でした。大量の資源を使って、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代が始まりました。産業化は豊かな社会の象徴でした。さまざまな公害が発生しましたが、それらは局地的な問題であり、地球環境全体の問題としては認識されませんでした。

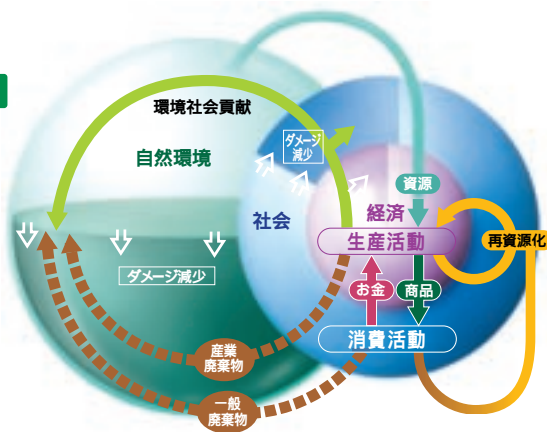
3 近年、自然へのダメージは、社会のストレスとなって現れ始めました。

右ページの図 3 は近年の自然環境、社会、経済の状況を表現しています。自然環境の回復力を超えたダメージは、社会を通じて、経済に「ストレス(A)」を与え始めると同時に、社会そのものの行き詰まりからも「ストレス(B)」が発生し、経済にダメージを与えています。人間は、異常気象による洪水や疫病の蔓延など、環境破壊が社会の存続そのものに危険を及ぼすことに気づき始めました。また、地球温暖化やオゾンホールなどが広く知られることにより、人間社会から排出される環境負荷は、地球環境全体に影響を与えているという認識も広がり始めました。今や、環境保全は世界的な課題となっています。経済活動の主体である企業は、環境保全に真剣に取り組んでいないと、社会からの支持を得られなくなってきました。これは、企業の存続にも影響を与えます。社会的責任投資やエコファンドなどの増加も、こういった社会の意識の変化を表しています。

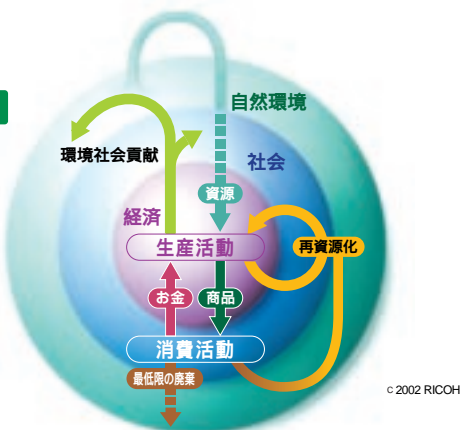
3



4



5



© 2002 RICOH

4 現在、少しずつ循環型社会が構築されつつあります。

現在の社会では、ごみの分別やリサイクル活動、省エネ活動など、自然へのダメージを減らすための活動が少しずつ拡大してきました。ものを大切に使い、資源を社会の中で循環させることにより、新たな資源の使用量も、廃棄するごみの量も削減できます。製造業にとっては、製品の長寿命・小型化、省エネ化、リサイクルなどを推進し、最小の資源で最大の社会的利益・企業利益を創出することが重要な課題になってきました。グローバル企業に対しては、事業を行う国や地域で社会的責任を果たしていくことはもちろん、今後大きな経済発展が予想される国や地域が、少ない環境負荷で経済発展を遂げられるよう、啓発や支援を行うことも求められています。一方で、森林保全や自然修復を行い、自然の再生力の回復に努めることも重要です。次の世代によりよい地球環境を引き継ぎ、持続的な発展を可能にするために、一人ひとりが地球市民であるという認識を持ち、今までの事業活動やライフスタイルを変革し、理想的な循環型社会を築いて行くことが、これからの企業や社会の使命です。

5 目指すべき姿は、自然と共存する、理想的な循環型社会です。

産業革命以降、人間社会は自然から独立したかのようなふるまいを続けてきましたが、近い将来、再び自然の中に戻り、自然と共存した社会を形成することでしょう。それは、人間社会の環境負荷が完全に自然の回復力の範囲内に抑えられている社会です。これは、たとえば「江戸」は高度なリサイクル社会だったことが知られているように、産業革命以前の社会の姿に似ています。しかし、その時代の知恵に学ぶことはできても、その時代に戻ることはできません。私たちは、人類史上最大の絶滅の危機を乗り越えるために、地球的な視野で、今までにない意識を持って、新しいチャレンジを始める必要があります。